

# 月報

<453号>

ケルンボン日本語  
キリスト教会  
二〇二一年二月三日

## 「私の事情から神の恵みの中へ」

佐々木 良子

今年も世界中が新型コロナウイルスに翻弄され、次々と新たな不安に包まれていきます。暗闇があまりにも長く続くと、神への信頼や希望が薄れていくような気がします。

だからこそ、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」(テサロニケへの手紙一五章一六〜一八節)と、イエス様が語りかけておられるように思うのです。

しかし、危機感に駆り立てられている時、喜べない理由を山ほど並べたくくなります。喜びや祈りを忘れ、困難な現状を目の当たりにして、どうして感謝できるのかと、眩さたくなります。

現在はコロナ禍の為に、世界中が試みに遭い、まるでその為に全人類が不幸に陥ったように感じてしまいます。しかし、振り返ってみると、私たちのこれまでの人生の歩みは、平穩無事で良いことばかりではなかった筈です。大きな苦しみや悩み、身近な者の死による悲しみ、寂しさ等、様々な道を通ってきました。喜ばしくないと考えることは、私たちが地上に生きている限り、大なり小なり付いて回るものです。

そうすると私たちは主が望んでおられるように「いつも」喜び、「絶えず」祈り、「どんなことにも」感謝することは困難を極めます。ですから、イエス様は私たちに頑張って努力せよと、叱咤激励しているのでしょうか。そうではありませ

ポイントは、視点を変えることです。「私の事情」から「神の恵み」へと心を方向転換することが大切です。私たちの日常生活の中から、心の内側から自然と生まれてくるものではない、ということに心を留めたいと思います。イエス様の御心にお応えできる根拠は、私たちにないのです。

主に心を開いた時に、信仰によって神から与えられる恵みなのです。言い換えるならば、神との関係においてのみ与えられるものです。私たちの努力や、私たちの感情から湧き上がってくるものでもありません。神の御手の中にある時、涙を流しながらも、そこに喜びと感謝を見出すことができるように招いてくださっているのです。

イエス様のご降誕の予告場面に目を留めてみたいと思います。天使ガブリエルの最初の挨拶の言葉は、「おめでとう、恵まれた方」(ルカによる福音書一章二八節)という呼びかけです。実際には、この後で告げられる「イエス様を身ごもる」という知らせは、結婚前のマリヤにとって非常に厳しい内容でした。それでも天使は「おめでとう」と言います。マリヤ側から見れば、喜ばしいことは何一つなく、むしろ当惑する出来事でした。

しかし、神側にとつては、喜びを受け取るように既に準備は整っていました。不可解な中、困難を知りながらもマリヤはこの知らせを信仰によって受け止めました。そうして、それは後になって全世界中で「おめでたい」クリスマスの出来事となりました。

聖書に記されているクリスマスの出来事を見る時、マリヤ側には喜び、感謝できる材料はあったのでしょうか。何一つありませんでした。喜びの根拠は神側にのみありました。

もう一か所、クリスマススの時期によく読まれるイザヤ書九章一〜二節を見て参りたいと思います。

闇の中を歩む民は、大いなる光を見  
死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。  
あなたは深い喜びと

大きな楽しみをお与えになり

人々は御前に喜び祝った。

刈り入れの時を祝うように

戦利品を分け合って楽しむように。

死の中にあっても、その最中において神の光に照らされ、人々は喜び祝ったと記されています。この喜びは人間側が努力して得たことでも、作り出したものでもありません。唯、神が一方的に無条件で与えてくださった光と喜びでした。具体的には言うならば、神を思う心、信じる心から光を見出し、誰も奪うことのできない喜びが与えられたのです。

神を思う心は祈りから始まります。祈りは神との対話と言われているように、一人虚しく孤独な時を持つわけではありません。祈った全てを心に留めてくださるお方です。涙を流した祈りを受け止めてくださり、その御手に握りしめられていることを知った時、恵みとして喜びと感謝が湧き上がってくるのです。

今年もイエス様は私たちの元に希望と喜びの光としていらしてくださいませ。一年間の胸の内を覆われている黒い雲は、イエス様の光によって、木漏れ日の分量が増えていくような気がします。新しい年も神の恵みの中で、喜びと感謝を一つずつ見出すことができたいですね。





今年を振り返って

「真実な神」

佐々木良子

今年も教会の方々のご健康が支えられて、スカイプを中心とした礼拝や諸集会等を一緒に守れたことは大きな喜びでした。スカイプを利用して二年目となりましたが、教会員全員が余裕で熟されていることは主の恵みという他ありません。更に十月より隣国で無牧となった教会の方々も参加され、神の家族の輪が広がりました。主は生きて働いておられ、最善を為してください。主は生きて働いておられ、最善を為してください。主は生きて働いておられ、最善を為してください。

「クリスマスに寄せて」

小川オスナー 良子

訪問介護で働き始めて三年余り。今年天に召されたクライアントのことを思い出す。亡くなった方たちが神様のもとで安らいでいますように。

今年の夏は息子の部屋の床を自分たちで張り替え、DIYに挑戦。出来栄えに満足している。子供部屋ではなく大人に向かって歩いていく。一三歳の部屋。色々なことを感じて、色々な計画又は野望が彼の頭の中を駆けめぐっている。彼は今年も魔笛に出させてもらい通算一〇回目の舞台となった。クリスマスコンサートで彼の合唱団は H. Schütz の Weihnachtshistorie を歌う。反抗期でとても生意気になったが、彼の歌声に癒されている。皆様が平穏で安らかなクリスマスを迎えられますように。

「感謝」

キムジョンホ・ソウン

今年も去年に引き続きコロナで全世界が大変な状況を迎えました。それは私達の生活にも影響を与えました。色々な場面でも厳しさを感じました。食べて生きるとい生活の問題ではなく、霊的にすくなく湯きを感じることでした。最後の時に武装してない自分達の姿に失望したりすることもありました。それでも神様は時に優しい御言葉を通して、時には刃のような御言葉で今日まで導いてくださいました。感謝しかありません。

来年は毎日の生活の霊的な戦いの中で、毎日勝利する夫婦になれるように今日も祈っています。ケルン・ボン教会の兄弟姉妹たちと来年も主と共に備えていけますようにお祈りします。イエス様の来られた日を心から喜んで。

「世界中の人のために祈ります」クリスティーナ・ユエン 私達がもうすぐ会えるように、抱き合うことができよう。今、私達は困難な状況にありますから、皆と一緒に祈り、希望を持たなければなりません。愛と平和に満ちたクリスマスになりませう。

「ひとことメッセージ」

シヨミット 亜弥子

今年も何人かの人が天国に行かれました。まだコロナが持続しているこの時ですが、今年初めに知人のご主人様が病院でコロナに罹りお亡くなりになった事を聞いた時は本当にコロナを身近に感じました。それまではニュースで聞くだけで人ごとの様に思っていました。

コロナではないですが七月には一〇年来、週一度ホームを訪ね食事介助をしていた方が亡くなり、一年近くもコロナのために会うことが出来なかったのはとても悲しい事でした。その方の三日後に日本人の友人Mさんが三ヶ月足らずのホーム滞在で亡くなられました。危ない状態の知らせを受けて訪ねた時、いつも一緒に歌っていた「主我を愛す」と「主の祈り」をした時には、眼をつむったまま声は聞かえませんが口を動かしていました。最近その娘さんからの電話でMさんの日本語の本を引き取る事になり、その中に宗教の本もありました。彼女はミッションスクールを出られ学問の好きな人で、キリスト教に関する本には沢山の書き込みがありました。私はその本をドキドキしながら彼女を思いながら読みました。そんな、こんな事を話す機会がなかったのを残念に思います。人と接する時に、よく観、聴き、感じる心を与えて下さい、と思いました。

「待降節の蝋燭を灯して」

佐藤 グルーベ 道子

コロナ禍にあって種々のウィルスが飛び交う中に在っても、今朝も健康が与えられ待降節の一本目の蝋燭を灯すことができ心から感謝しています。まだ朝薄暗い中に灯された蝋燭の炎がどんなにか明かりを輝かせ、暖かく温もりを感じさせてくれたことでしょう。世の光である神様を象徴するかの如く、昨日テレビの「クリスマス精神」アール川谷」

では、世の光となって働いている名の知れない方々の姿を目にしました。今年七月の水害地、ライン川の支流アール川沿いの町の復興に貢献する人々の心温まる活動が報道されました。洪水以来この数ヶ月の土日曜日は、三時間も自動車運転をして被災地



に通い土木作業に携わる若者達。その持ち前を發揮して電気・暖房・水道関係の作業にあたっている定年退職者。教会堂の床をドリルで取り除いて行く埃の中で石を運びお年寄り。待降節を迎えて家の玄関をみみの木で飾ったり、被害者に贈るためのクリスマスツリーを森の中で切ったりする庭園業者。St. Joe (キリスト降誕の馬小屋場面の人形)も各地から伝統豊かな趣のあるものが寄付されて、家族の喜びの笑顔の瞬間も捉われていました。そして地元の人々の感激は、Darkoと割れてしまっているガラスに大きく書き表わされていました。暗闇の中に世の光としてこられるイエス様のご降誕を心待ちにし、準備を整えるこの情景に深く感激し教えられました。

「クリスマスメッセージ」

ドレーアー 京子

今年の大きな出来事といえば、孫娘の世話で二度ベルリンに滞在したことです。十月以降よく風邪を引くようになり、幼稚園を休むことが多くなり、稚園を休むことが多くなり、預けていたのですが、長引くようなので私たちにも声がかかり、最初は一週間、二度目は二週間滞在しました。幸い今は元気に幼稚園へ通っています。娘曰く、鼻水くらいでは休ませないから大丈夫、だそうです。以前新聞に掲載された記事に、「コロナ禍で子供たちが家にいることが多くなり、他の子供たちと接触する機会がなく、それに合わせて様々な病気と接することがなくなった為に抵抗力が落ちていく」という内容のものがありません。



コロナといえは新しい感染者数に目が行きますが、社会生活が大きく変わり、そのために出てくる様々な問題が私たちの身近にあることを忘れてはいけないと思います。今困難な状況にある人に光が与えられますようにお祈りいたします。



「アフガニスタンから来た一人の男の子とベツレヘムの星」

ワルター・ドレーア

私たちの住む村の奉仕活動の一つ、「難民児童の世話」に私は二か月前から参加しています。毎週火曜日の午後がその集まりの日で、私は一人の男の子と一緒に、「小さな藁の星」という詩を暗唱する練習をしました。それは、クリスマスツリーに飾られた鼻高なガラス球と、小さな藁の星との間に起きた争いについて書かれた詩です。その藁の星は、牛小屋で生まれた御子を皆が見つつけられるようにベツレヘムの上で輝いた、あの星を思い出させてくれました。私たちはその詩を何度も繰り返して読みました。しかしその子を見ていると、急に何をしたいのわからなくなりました。クリスマスツリー、藁の星、ベツレヘム、牛小屋の子供、そして星の光、誰もが知っている光景ですが、これらのものが彼にとつて何の意味も持たないとしたらどうでしょう。「家でお姉さんと一緒に練習する」とその子が言った時、私は内心ホッとしました。しかし本当に嬉しいという気持ちにはなれませんでした。

「二〇二一年の格別な思い出」 橋本ツインママン 和歌子

今年には既に一二月に入り、まさに光陰矢の如しです。コロナ禍は未だに終息の見通しがなく、数え切れない程の人々はこの病気で帰らぬ人となりました。人間的な無力さを強く感じます。幸い私達は信仰によって、見えない全知全能の神様にお守りと恵みで救われています。神様の賜物に感謝します。私の二〇二一年を振り返ると、特別な思い出がいくつかあります。最も格別なのはケルン・ボン教会の佐々木先生との出会いです。今年七月に、私が日本で在籍している中央福音教会の岩城姉妹の紹介で、佐々木先生に連絡を取りました。私にとつて、先生はドイツで出逢った初めての日本人牧師で、気さくで愛が溢れる心持ち主だと言つて印象でした。先生は私の教会入籍状況を確認した上、私をケルン・ボン日本語キリスト教会の客員教員として迎えました。私も客員であつても、主にあつて神の家族である事を認識しながら、教会員の方々と分け隔てなく共に神様を信じる道を歩んで行きたいです。神様にこの導きに感謝します。そして、私は七月一日に初めて、教会のオンライン礼拝に参加させて頂き、その週の説教テーマは

『私に従いなさい』でした。佐々木先生の聖書の解釈視点は、私にとつて分かり易くて、斬新なものでした。礼拝に参加する事によって、神様を信じる事の喜びをより一層感じます。

「今年の思い出」

藤井隼人

私にとつて今年一番の思い出は、ハンブルグに住む長男潔がコロナ禍の中で様々な困難を乗り越え、五月二十八日に同地で Bistrot を無事開店できたことである。場所は Osterstrasse (イースター通り) という商店街で、車道も歩道も幅が広くて人の往来も多く、タクシー運転手によれば「店を開くには最適な街」。共同経営者は、潔の木の親友で現在フライブルグのチームで活躍中のプロサッカー選手ニルス・P.。又、設立準備段階から、Sandkastenteufel (砂場の友、幼な友達) のケンジ君が強力なサポーターとして昼夜活躍してくれた。スムーズな開店はケンジ君の協力抜きには考えられなかったであろう。Bistrot [kuː.ɔː] の HP (bistrot-ku.de : 日本語の「食おう」から取った由) の冒頭に出てくる猫やメニューの挿絵はケンジ君の作品。店のコンセプトは、寿司、天ぷら等、日本食といえば真っ先に思い浮かぶ典型的な料理ではなく、ポピュラーな家庭料理である丼物(牛丼、親子丼、麻婆丼、茄子丼)とカレー。サイドメニューのキムチ、サラダ、味噌汁、枝豆、唐揚げ、ケーキ等、全て自家製である。「おふくろの味」が売り物だ。飲食業は私にとつても未知の世界。今後色々な課題に遭遇するであろうが、順調な経営が続くことをただひたすら祈るばかりである。 Frohe Weihnachten!

Frohe Weihnachten!

藤井弘子

今年も又、感謝をもってクリスマスを迎えます。コロナの嵐の中でも日常生活の平穏が与えられ、必要な計画は必要に応じて為されました。何よりも家族は一同元気で。潔が結婚しました。コロナ禍の八月、少人数ながら、心のもった楽しい婚礼が準備されて、本当に感激しっぱなしの日となりました。どうか二人で力を合わせて苦楽を共に出来ますように、と切に願い主に感謝しました。

現在世の中はコロナ、温暖化対策、核合意、東シナ海域等、声高に言われますが、実は、世界人口の半数が十分に綺麗な水が飲めず食料がないことが忘れられていないでしょうか。今こそ武器を鋤や鎌に換えなければなりません。腕に抱いた我が子が、衰弱して行くのを見ていなければならぬ母の姿を地球上から無くしたい。この一年間、心を砕いて羊を導いて下さる牧師が守られたこと、休むことなく礼拝が持たれたこと、羊飼いの羊飼、イエス様のご誕生に感謝!皆様のご健康と平安を祈りつつ。

「光」

ヘルガー・マイヤー

「わたしを信じる者が、だれも暗闇の中にとどまることのないように、わたしは光として世に来た。」ヨハネによる福音書 一章四六節

「メリークリスマス!」

藤井千恵

八月に交換留学でアメリカ合衆国へと飛び立った長女の奈々。果たして出発できるかも分からない状態が続いたが、両親・おばあちゃん・三人娘の末っ子(お姉さんたちは大学の寮)・猫二匹・犬一匹からなるファミリーの一員となった。アメフトや教会の秋季キャンプ、感謝祭、クリスマスパレード、家族が通う日曜毎の礼拝にも奈々は同行しているらしい。こちらにいる間は、小学校を卒業した一〇歳頃から教会とは全く縁がなかった彼女だが、向こうの家族の影響でハイブル・スタディも始めたそう。帰って来たら色々聞かせてもらうのが楽しみ。「家に帰ったら、もう二度と食事の文句は言わないよ。こっちはファストフードやインスタントばかり」だそうで、大笑い。

先日ベルリンでメルケル元首相の送別儀式が行われた。一六年間の任を終え、連邦音楽隊による演奏や退任証書の授与がなされた。演奏された曲の内三曲はメルケルさんが選ばれたもので牧師の娘であ



るメルケルさんらしい選択であった。彼女の賢く、前向きで且つ淡々とした政治は、後々にも大きい影響を与えたと思う。みなさま、どうぞお元気で！

「クリスマスへの思い出し」

外間久美子

一九八二年の秋、私は音楽学校の傍らブライベート出張レッスンを始めることになりました。いつも花のある素敵な家でした。アドベントに入ると廊下の壁に樅木の枝が掛けられ、ツリーのようになり可愛らしく飾られてありました。樅木の枝を利用してこんな素敵なクリスマス壁掛けができるんだということも感動し、アドベントには欠かせない私の飾り付けになりました。



その翌年だったと思います。今年はどうな飾りつけだろうと楽しみに行くとき、様子が変わっていました。その壁掛けが別の場所にあり、その代わりに、大きな別の木の枝が壁に斜めに掛けられてありました。そして、そこには一から二四の数字が書かれたかわいらしい大小の袋が掛けられ、プレゼントが入っていました。手作りのアドベントカレンダーでした。三人兄妹で交互に開けるのかと尋ねると、なんと毎年自分達のために作ってくれた両親に、感謝を込めて子供たちで作ったというのです。感動で涙腺が緩みました。今年も又、クリスマス壁掛け作りながらあの心優しい姉妹とその両親のことを思い出ししています。メリークリスマススー！！

「苦難の中の救い」

中村 雄

ブリュッセル日本語プロテスタント教会の中村と申します。この一年、私の所属するブリュッセル教会はコロナ禍に加え十月より無牧となり大きな困難に直面した年でした。後任の牧師はおらず、コロナのせいもあって集会すらままならない中、日本基督教団からケルン・ボン教会をご紹介頂き、夏の欧州キリスト者の集いで佐々木先生とお話をする機会が持てたことは大きな幸いでした。そして、一月から、ブリュッセル教会の信徒一同、ケルン・ボン教会の礼拝にオンラインで参加させて頂いております。

在欧諸教会の中では比較的近所のケルン・ボンですが、流石に毎週通うことは難しく、スカイプを用いた礼拝参加が可能である現状は、コロナ禍の恩恵かと、苦難の中に必ず救いを留意してください。神の人の及ばぬ恵みのようにも感じます。そして、離れた場所でありながら、交わりを通じて皆様の温かさが伝わってくるこの教会の礼拝をとても尊く感じます。ブリュッセル教会の無牧期間がどれくらい続くかはまだわからないのですが、暫くの間、その温かさに身を委ね、神の更なるご計画を待ちたいと思います。今後とも、宜しくお願い致します。

「この十月」ブリュッセル日本語キリスト教会 鍋谷枝実子

縦書きにびっしりのあの立派な「ケルン月報」、自分には無関係と思っていたので、執筆することにとても驚いています。人の出入りが激しいベルギーで、私は二三年目、九〇代、七〇代の姉妹に続く歳です。教会生活はただ、友達のように遊びたかった日曜学校のさぼりたい病から、ゆるゆる歩んで来ました。ずっと、聞いていたオルガンの調べと、知らず知らずさんでいた文語調の讃美歌が好きで、今迄の讃美歌二には、心が弾みませんでした。

ケルン・ボン教会の礼拝の初参加の際には、礼拝時間の前にブリュッセル教会のメンバー達を紹介して頂き、温かい歓迎と共に歌われる讃美歌五四年版に胸が熱くなりました。そして、軽い気持ちで参加した聖書研究会に、昔、感じていた清々しさを思い出さされました。長い間、囚われていた自分の思いから解放された、信仰生活に光が射した思い一杯です。更に、ベルギーでも讃美歌五四年版が歌われるようになり、懐かしい響きの中に信仰を新たにさせられるようで、この二〇二一年忘れられない十月になりました。

◇ 予定 ◇  
 ◇1月2日 14時  
 日独語新年礼拝  
 スカイプ  
 ◇1月30日  
 教会定期総会  
 ◇隔月ごとに懇談会  
 ~諸集会について~  
 礼拝 毎日曜 14時  
 スカイプ (暫定的)  
 聖書の学び会 スカイプ  
 毎水曜日 10時  
 ママの子育ての学び会読書会  
 変動的ですので、牧師までお問い合わせ下さい。尚、子どもの礼拝は暫く休会です。随時、HPでご確認ください。

◇ 報告 ◇

- ◇ 九月から第二・四日曜日に、ボンハップファー教会にてスカイプ同時配信で礼拝を再開しましたが、コロナ新型ウイルス感染拡大のため、一二月より会堂での礼拝を中止し、スカイプ配信のみの礼拝となりました。
- ◇ 九月より月・一回の、ケルン、メーアブッシュ地区の家庭集会を一年半振りに再開しました。
- ◇ 九月十九日(日)礼拝後、第二回修養会をスカイプにて行いました。
- ◇ 九月二十六日(日)一八時より、外国語教会主催による夕礼拝がアントニータ教会にて開催され、牧師、他二人参加しました。
- ◇ ブリュッセル日本語キリスト教会は一〇月から無牧となった為に、私たちのスカイプ礼拝、聖書の学びの会に参加していただきます。
- ◇ 一月二日(日)五日、南ドイツにおいて欧州教職者研修会に佐々木牧師が参加しました。
- ◇ 一月二日、スカイプにて子どもと大人の合同クリスマス礼拝をお献げしました。昨年同様、教会員の方々によるギター演奏、日本より小松川教会ハンドベルクワイヤーによる動画配信など、幸いな時を持つことができました。

◇ 編集後記 ◇

今号は、特に内容豊かなものとなりました。じっくりとお読みくださると嬉しいです！新しい年もインマヌエルの主のお守りと共に、恵み豊かな年となりますようにお祈りいたします。(佐々木良子)

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会  
**Japanische Evangelische Gemeinde Köln-Bonn e.V.**  
 <主日公同礼拝>  
 会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche  
 住所: An der Decksteiner Mühle 1  
 50935 Köln (Lindenthal), Germany  
 電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)  
 時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00  
 <牧師> 佐々木良子 (Pfr. Ryoko SASAKI)  
 牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln  
 固定電話: 02234-9298792  
 携帯電話: 0151-2910 6278  
 Email: r310130s@yahoo.co.jp  
 <ホームページ>  
 http://koelnbonn.jp  
 <振込口座>  
 IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38  
 BIC: PBNKDEFF